

計算書類に対する注記（総合ケアセンター茶山拠点区分用）

1. 重要な会計方針

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価方法は、最終仕入原価法による原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却の方法

①建物

平成19年3月31日以前に取得をしたものについては旧定額法、平成19年4月1日以降に取得したものについては定額法によっている。

②器具及び備品

平成19年3月31日以前に取得をしたものについては旧定額法、平成19年4月1日以降に取得したものについては定額法によっている。

③構築物

平成19年3月31日以前に取得をしたものについては旧定額法、平成19年4月1日以降に取得したものについては定額法によっている。

④リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産
自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法によっている。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

(4) リース会計基準適用初年度開始後の所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じて会計処理を行うこととする。また、利息相当額の各期への配分方法は利息法とする。

ただし、リース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下又はリース期間が1年以内のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行うことができる。

2. 重要な会計方針の変更

該当なし

3. 採用する退職給付制度

該当なし

4. 拠点が作成する計算書類とサービス区分

当拠点区分において作成する計算書類は以下のとおりになっている。

(1) 特別養護老人ホーム拠点計算書類（会計基準省令第1号第4様式、第2号の第4様式、第3号第4様式）

(2) 拠点区分資金収支明細書（別紙3（㊸））

ア 特別養護老人ホーム茶山

イ 短期入所生活介護（ショートステイ）茶山

ウ デイサービスセンター茶山

エ 小規模多機能居宅介護

オ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

(3) 拠点区分事業活動明細書（別紙3（⑩））

- ア 特別養護老人ホーム茶山
- イ 短期入所生活介護（ショートステイ）茶山
- ウ デイサービスセンター茶山
- エ 小規模多機能居宅介護
- オ 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）

5. 基本財産の増減の内容及び金額

基本財産の増減の内容及び金額は以下のとおりである。

(単位:円)

基本財産の種類	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
建物	0	1,290,283,140	53,719,136	1,236,564,004
合計	0	1,290,283,140	53,719,136	1,236,564,004

6. 基本金又は固定資産の売却若しくは処分に係る国庫補助金等特別積立金の取崩し
該当なし

7. 担保に供している資産
該当なし

8. 有形固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、以下のとおりである。

(単位:円)

	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
基本財産			
建物	1,290,283,140	53,719,136	1,236,564,004
小計	1,290,283,140	53,719,136	1,236,564,004
その他の固定資産			
構築物	91,063,104	5,356,968	85,706,136
器具及び備品	70,758,087	10,779,904	59,978,183
小計	161,821,191	16,136,872	145,684,319
合計	1,452,104,331	69,856,008	1,382,248,323

9. 債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高

債権額、徴収不能引当金の当期末残高、債権の当期末残高は以下のとおりである。

(単位:円)

	債権額	徴収不能引当金の当期末残高	債権の当期末残高
事業未収金	64,042,689	0	64,042,689
合計	64,042,689	0	64,042,689

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

11. 重要な後発事象
該当なし

12. その他社会福祉法人の資金収支及び純資産増減の状況並びに資産、負債及び純資産の状態を明らかにするために必要な事項
該当なし